

# 「実践をつなぐ」

講師 市川 忠稔氏（社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会）

昨年6月にびわこ学園は、創立60年を迎え、「この子らを世の光に」を継承しながら、「この子らとともに光輝く時代へ向けて」新たな歩みを始めました。創立61年目となる今年度の記念講演は、長く滋賀県の社会福祉分野でご尽力されておられる市川忠稔氏（滋賀県社会福祉協議会会長・社会福祉士）を講師にお招きし、「実践をつなぐ」というテーマでご講演いただきました。

市川さんは、これまでのご経験の中で、びわこ学園に関係するいくつかの業務に携わられていたことについて話された後、「滋賀県における福祉の取り組みの歴史」、「公私連携・制度や分野を超えての実践」、テーマである「実践をつなぐ」を柱として、以下のようなご講演をいただきました。

## 滋賀における第二次世界大戦後の福祉の取り組み

滋賀における第二次世界大戦後の障害福祉の取り組みは、糸賀先生を中心とした近江学園の開設に始まった。その後も、制度がない中で多くの施設が開設された。また、乳幼児健診や共同作業所等の民間で始められた取り組みは、県が支援し、その後国の制度になっていった。

このように、当時の滋賀県における福祉は、関係者による「いのち」と「いきがい」を支える取り組みの連続であった。

## 公私連携による各地での取り組み・福祉関係者における制度や分野を超えての仕組みと実践づくり

この間滋賀県内では医療と福祉の多職種で「医療福祉」を創造すべく、関係者間でお互いの果たすべき・期待される役割を再確認し、課題や成功体験を共有しながらそれぞれの活動に生かしてきた。

また、福祉関係者においても、地域住民がともにいきいきと地域の中で暮らせるように、「滋賀の縁創造実践センター」を推進母体として、生活に困りごとがある方々のニーズに応え支援する複数の事業を立ち上げて進めてきた。



令和6年度創立記念講演講師 市川 忠稔氏

## 「実践をつなぐ」うえで

### －仕事をやっていて幸せを感じる瞬間－

「いのち」と「いきがい」を支えるとは、人格を大切にすること。向き合っている人々に思いが伝わった時に「仕事をやっていてよかった」と幸せを感じ、自己実現を果していることが実感できる。

また、相手の「いのち」を大切にすることと同じように、自分の「いのち」を大切にすることにつながる。

繰り返しの毎日でも、このことを意識すれば、新たな発見があり、幸せを感じながら継続することができる。

### －学ぶことの大切さ－

専門職として、先輩方が実践された「経験」に学び、「地域」に学ぶ。そして、その学びをいかした実践経験の積み重ねと地域の人との支え合いが、新しい地域福祉、共生社会へつながっていく。

講演の最後には、糸賀先生や岡崎先生が目指された「この子らを世の光に」「ともに生きる」社会の思想を受け継ぎ、多様性を尊重する「共生社会」の実現に向けて「誇りをもって取り組んでほしい」という私たちへの応援メッセージをいただきました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

（法人事務局事業企画部）

記念講演の動画と講演資料については、「びわこ学園ホームページ」からご覧いただけます。

